

教区教化テーマ 生活を聞法の一真宗門徒として一

九州教区の課題

九州教区は3年間の移行期間を経て、教区としての歩みが本格化した。その意味で本年度は教化委員会第2期としての教化事業の実働が始まったわけであるが、その中で九州教区人への自覚こそが課題の中心であることがあらためて認識された。

旧5教区はその伝統の中でそれぞれに特徴ある教化事業を展開してきた歴史がある。その歴史は、今こそ新しい視点で捉える時機を迎えたと皆が認識する機縁へと転じる装置となるはずである。その上で実のある教化の方向性が希求されなければならない。かかる視点から現在の九州教区教化事業が抱える方向性を課題として抽出する。

総合教化本部について

まず昨年度、総合教化本部事業として「知ることから始めよう～「是旃陀羅」の今までとこれから～」と題し教化委員会学習会を開催した。この課題を教区として深化させるためには統一テーマに基づいた継続性が必要となり、九州教区解放運動推進協議会との連携も不可欠となる。その他、帰敬式実践運動推進計画の展開、教区報恩講の在り方など、粘り強い協議などが課題となる。

3部門について

育成員研修部門は、昨年度、九州教区として初めての安居を開催したが、教学研鑽の場としての理念とは別に物理的な問題(開催地までの距離、日程など)において、なお考慮せねばならぬ課題が生じたことは無視できないところである。それが懸念材料とならないような体制づくりの構築が課題となる。

青少幼年部門については、僧侶・門徒を問うことなく、各現場における出会い・交流・学びを通した寺院における子ども会の結成や活性化が求められる。そこには「ひとりと出会う」決意と行動が求められ、そのための場の創造が喫緊の課題となる。

同朋の会推進部門については、各寺・地域における同朋の会の結成・充実、ファシリテーション(会議などを円滑に進める技法)への理解と実践が課題である。その実践にはたとえば同朋の会推進講座において実のある座談会の実現が期待されるところである。

具現化へむけて

2024年度においては、上記課題を教区内の各人と共有し展開・継承していく必要がある。教区発足以来掲げてきた教区教化テーマ「生活を聞法の一真宗門徒として一」をつねに念頭においた教区教化事業の展開、各組・寺院における教化事業への促進が期待される。以下、その具現化に向けての研修計画を掲げる。

以上